

ハート・オブ・ゴールド

通信



vol.41

2019年7月15日発行

発行/編集 ハート・オブ・ゴールド事務局
本部 〒701-1213 岡山市北区西辛川 895-7
レジデンスアロー 101
TEL&FAX 086-284-9700
E-mail: hginfo@hofg.org

URL : <https://www.hofg.org/>



↑ 第1回キックオフミーティング
↓ 筑波大学山口助教のプレゼンテーション



↑ プール建設起工式
↓ 日本体育大学岡出教授のワークショップ



【日本 NGO 連携無償資金協力事業】

国立体育・スポーツ研究所、体育科コース4年制大学化

プロジェクト・マネージャー 手束 耕治

カンボジア教育・青年・スポーツ省（以下、教育省）は、教育改革を進めており、ASEAN 基準に合わせるため、すべての教員が学士（4年制大学卒業）を取得できるよう4年制の教員養成課程を設立しようとしています。一方、体育科については、国立体育・スポーツ研究所（以下、NIPES）において2年制課程で中学校・高等学校の体育教員を養成していますが、4年制にするためにはカリキュラム等のシステム構築、人材育成、施設整備等、多くの課題を抱えています。よって本事業では、他教科の教員養成大学と一貫性のとれた4年制体育大学を設立することを目的とし、目標は以下の3つです。

- ①大学に移行するための制度の整備。
- ②質の高い体育を教えられる人材の育成。
- ③質の高い体育を教えられる施設の整備。

1月より事業を開始し、これまでに実施した活動は、

1) 体育科コース4年制大学設立委員会を設置し、1月11日にNIPESと教育省の関連局である教員養成局、カリキュラム開発局、計画局、高等教育局による第1回キックオフ

ミーティングを実施。

2) 1月21日にスポーツ総局下にあるNIPES、学校体育・スポーツ局、体育・スポーツ局、ナショナル・トレーニング・センターが集まり、第2回キックオフミーティング開催。



日本体育大学岡出教授による研修会の様子

3) 2月18日～20日、NIPESの教員と職員がNIPESの現状と課題を理解し、体育科コース4年制大学化に向けたプログラムを検討するための基礎知識を獲得するためのワークショップ（山口 拓助教 / 筑波大学）を実施。

4) 2月26日～27日、カリキュラムを作成するために必要な情報、知識を学び、グループワークを通じてカリキュラムフレームワーク案を作成。

5) 3月19日～22日、アドミッ

ション・ポリシー（NIPES 4年制大学体育科コースに入学するための条件や入学時点で必要な資質等を定めた基本方針）検討ワークショップ、NIPESを卒業した学生が築くキャリア形成方針とNIPES職員及び体育教員が新たに学士を取得するための道筋を検討するワークショップ（岡出美則教授 / 日本体育大学）を開催。

6) 5月6日～15日、4年制大学体育科コースで教えていくための能力を向上させるためにNIPESの体育教員4名の日本研修（日本体育大学、国士舘大学、横浜桐蔭大学を視察）を実施。

7) 質の高い体育を指導できる環境整備として、プール（25mx15m）の建設工事を3月より開始。

今後は、評価ポリシー、体育科コース運営ハンドブック、教員マッチアップ等のワークショップを開催し、4年制大学に移行するための制度を整え、タイ研修（8月）、日本研修（11月）を実施し、人材の育成を図ります。また、プール建設と関連機材の設置工事、施設管理ワークショップ、施設運営マニュアル作成、そして、NIPESがプールを運営管理できるようにする予定です。

第3回カンボジアパラ陸上競技会開催

アドミニストレイティブ&プロジェクト・オフィサー 米山 遥香

3月1日、2日の2日間、オリンピックスタジアムにてカンボジアパラリンピック委員会(以下、NPCC)とハート・オブ・ゴールド主催の第3回カンボジアパラ陸上競技会を開催しました。

JICA 短期派遣ボランティアの筑波大学大学院生中村さんと社会人(陸上経験者)石川さんが2018年12月から競技会までの3ヶ月間、トレーニング計画の作成、生活面における注意点、フォームチェック等を行うワークショップを開催、そして、コーチの指導をサポートしNPCCとも協力しながら競技会の企画運営を一緒に行いました。中村さんは、昨年に続き再派遣であり、前回の反省を活かしながらスムーズに活動され、石川さんが専門的な知識・視点から様々なアドバイスをしコーチが自ら考え、行動できるようサポートしてくれました。



↑ 義足選手 400m 車いす選手 400m ↓



競技会には24名(立位選手19名、車いす選手5名)のパラ陸上選手が参加しました。視覚障がい女子、知的障がい男女、四肢切断男女、義足男子、車いす男子の、障がい別、距離別の合計24種目を設定しました。それぞれの種目で1位～3位にはメダルの授与、スポンサーであるActive People's Microfinance Institution Plc. から賞品の贈呈がありました。

今回は、新しい選手発掘のため、

また走ることの楽しさを味わってもらうために障がい者向けに100mのオープンレースを新設しました。100mを走ったことのない方がほとんどで、今回走ってみた感想を聞くと「とても大変だったが、最後まであきらめずに走ることができた」や「楽しかった。また来年も参加したい」という声を聞くことができました。



↑ オープンレース ファンイベント ↓



また、前回に引き続き、障がいを持った子ども達のためのファンイベントを開催し、パラ陸上選手を中心とし、「だるまさんが転んだ」と「リレー」等で走ることの楽しさや体を動かすことの楽しさを伝えました。普段スポーツをする機会がない子ども達が多く、またスタジアムで選手とともに走ることができるので、どの子どもとても楽しそうにしていました。オープンレース及びファンイベントには10団体(バタンバン州1団体、カンボット州1団体、プノンペン近郊8団体)から大人・子ども含め約120名の障がい者が参加しました。

競技人口がまだ少ないため、パラ陸上の啓発活動を行っていくことは、新しい選手発掘のため大変重要であると感じています。また、パラ選手にとっては、子ども達の憧れの存在になることにより、応援してくれる人達のために頑張ろうと、日々のトレーニングに励み、国際大会でのメダル獲得を目指すモチベーションになります。

大会前にはカンボット州にある



メダル授与

アートを通じた障がい者支援をしているEpic Art Cambodiaを訪問し、パラ陸上の紹介、トレーニング、ゲームを行い、走ることの楽しさを伝えました。質疑応答の時間には、たくさんの質問があり、選手が自分に誇りを持って答える姿が印象的でした。中には車いす選手になりたいという方もおり、大変有意義な時間を過ごすことができました。Epic Art Cambodiaは今回の競技会で開会式及び閉会式にてダンスパフォーマンスを披露してくれました。

2023年にカンボジアで東南アジア大会、パラ大会が開催されることにより、カンボジア国内でのスポーツ熱は年々盛り上がっています。HGが開催するパラ陸上競技会は、2023年を意識した大会運営を心がけています。いずれはアンコールワット国際ハーフマラソン大会(AWHM)をカンボジアオリンピック委員会に運営移譲したように、このカンボジアパラ陸上競技会もカンボジア人が自分達で継続して運営できる大会にしていきたいと思っています。そのためにも今後、HGの障がい者スポーツ事業として、パラ選手・コーチの能力向上をNPCCと力を合わせて、二人三脚で取り組みたいと考えます。まだまだパラ競技人口が少ないため、大会実施とともに、啓発活動を行っていき、障がい者がスポーツを通し、新たな人生を見出していくことを、応援したいと思っています。

プラチナスポンサー：Active People's Microfinance Institution Plc.、かすみがうらマラソン大会、HGチャリティーゴルフコンペティション、ゴールドスポンサー：サタパナ銀行、物資スポンサー(飲料水提供)：Vital Premium Water

カンボジア王国 中学校体育科教育指導書完成間近

プロジェクト・マネージャー 西山 直樹



たが、2016 年からは、教育省の独自予算でも実施されるようになっていきます。自分達の予算で、自分達の考えで普及を担えるようになっていくことは、HG が今まで地道に体育の価値を説明してきた大きな成果だと考えています。

中学校は全国に約 1,700 校あり、この 1,700 校に新しい体育を効率的に普及するためには、HG と教育省のプロジェクト以外に、教育省が市・州の教育局や各学校と連携して普及していく必要があります。現在、プロジェクトでは、プノンペン市、バタンバン州、スヴァイリエン州で普及を実施していますが、3 州に約 28 校の対象校があり、いくつかの学校ではすでに新しい体育が導入されています。市・州の教育局の人達が新しい体育を教えられる先生を活用し、それぞれの市・州で独自の普及システムを確立していくことも重要になります。

2020 年 9 月までのプロジェクト実施期間に、①教育省内に指導できる人材の育成、②指導書の作成を通じた指導内容の確立、③モデル市・州での新しい体育の普及を並行して進め、カンボジアのすべての中学校で体育普及の基盤を確立していくことを目指します。

HG は 2017 年 1 月から、2016 年 12 月に教育・青年・スポーツ省（以下、教育省）により認定された体育科学習指導要領に基づいた指導書の作成支援事業を行っています。

当初、2018 年 9 月の完成を目指し、11 月からの新学年で配布することを目標としていましたが、2019 年 5 月末になってもまだ完成していません。理由として、教育省担当官や HG スタッフの作業の遅れもあったのですが、学年の途中で配布するよりも、時間をかけて、より先生に分かりやすい、利用しやすい指導書を作成しようと方針転換を行ったためです。

現在取り組んでいることは、今まで多くの種目を教えていなかった現場の先生達がより理解できるように分かりやすいイラストを導入することや、完成して本になった際にそれぞれ 1 頁で見える内容を考え先生達が見やすい構成になるよう校正しています。また表現についても統一した言葉が使われるよう、HG で 2006 年から勤務している Keo Sochetra が全ての指導書の内容を確認し、丁寧に修正を加えています。



カンボジアの先生達は、体育の先生になる際に現在の学習指導要領にある器械体操や卓球を習っていません。そのため突然読みづらい指導書を渡されても、理解ができないと想像できます。私達のゴールは指導書を作成することではありません。先生達はその指導書を読み、指導書に記載されている「態度、知識、技能、協調性」を子ども達が学べることがゴールだと思っています。そのためには、どのようにしたら先生達が指導書をもとに年間計画や単元計画、指導案を作っていくことができるのかを考えて、指導書を作成する必要がありますと考えています。



また、指導書の配布だけでは新しい体育の普及は難しく、教育省も指導書の内容を説明するワークショップ（以下、WS）を行いながら、広げていくことが重要であると考えています。今までは、HG がプロジェクトとして確保していた予算のみでモデル州に対して WS を実施してしまし

教育・青年・スポーツ省スポーツ総局長 オーク・セティチエット

私の夢は、子ども達が健康で、可能性のある人生を歩むことができ、人々が平和に暮らし、経済成長を遂げることで、地方も豊かになっていくことです。



以前のカンボジアでの体育は手足を動かすだけの体操でしかありませんでした。今では学習指導要領、指導書が整備され、体系だった体

育を教えられるようになりました。すべての学校への導入が課題になっていますが、確実に発展しています。

HG は特に、DPSS（学校体育スポーツ局）及び NIPES（国立体育スポーツ研究所）の人材育成を長期にわたり行っており、質の高い教員が育ってきています。体育科教育事業は、しっかりと成果を出してきています。

子ども達は、体育授業を通じて、健康や規律、態度や知識を学ぶことができます。それらを学んだ子ども達が、国の発展に貢献できると考えています。

2023 年にカンボジアで「東南アジ

ア大会」が開催されますが、スポーツの価値が改めて見直されています。いくつかの個人スポーツ、陸上などは体育の中で取り込まれています。いろいろなスポーツに子ども達が取り組むことによって、スポーツ環境も整いつつあります。

スポーツ総局長として、HG、日本政府に感謝し、カンボジアの国の発展に協力いただけていることを大変うれしく思います。特に体育に関しては、大きく成長することができ、とても価値のある支援をいただいていることに、心より重ねて感謝申し上げます。

ニューチャイルドケアセンター (NCCC)

シニア・アドバイザー 村上貴美子

現在、NCCCには男子6名、女子10名の16名が、家庭的な雰囲気の中で生活しています。NCCCの今期の最大の出来事は、子ども達の宿舍棟をはじめとする生活施設の改修工事です。1月10日に開始し、2月末に第1期工事を終えました。改修工事内容は、以下のとおりです。

1. 多目的ホール

トタンの底は劣化し、今にも崩れ落ちそうでした。今回の改修工事は、この底



新しいホールで勉強中

の全面撤去、新たな取り付けはもとより、足元も十分な広さをセメントで固め、建物の周囲は犬走りで囲われました。これにより雨期の大雨の場合でも、多目的スペースとして十分に利用できるようになりました。

2. 台所

従来の台所は薄暗く、炊事場は小さな洗い場と釜戸があ



るだけでした。雨の日は、直接雨が調理台に降り注いでいます。今回の改修で、その周囲は犬走りで保護され、調理台の前面のスペースは、子

ども達が調理を手伝うときにも安心したスペースを確保できました。

また、釜戸も全面改修し、シンクも広くなり、釜戸の前面は窓となり、とても明るくなると同時に、煙突の役割を担っています。

3. トイレ・シャワールーム、洗面所、洗濯場等の水回り

従来のトイレ・シャワールームは2部屋しかなく女子は10名のため、足りていませんでした。今回の改修で、女子用トイレ・シャワールームを4部屋にしました。この改修に合わせて、シャワールームの外側に設置している洗面台も、スペースを広げました。また、壊れていたトイレの排水・浄化槽は新しいものを設置。さらに、洗濯場及び物干し場を設置しました。



↑ 広くなった洗面所で歯磨き
新しくできた洗濯干し場 ↓



4. 水タンクの取り換え

古くなって汚れた水タンクを衛生的で掃除のしやすい物に交換。排水

システム・浄水機のメンテナンスにより、きれいな水がいつでも使えて、子ども達の健康を守ります。

5. 女子棟・男子棟

急な階段で、足場が狭く、支柱は腐って崩れかかっていた。今回の改修で、



木造からセメントに変更し、階段の幅を広げ、手すりをつけて、傾斜も緩やかにしたことによって、女子棟への上り下りは安心してできるようになりました。雨漏りもあったため、屋根の修理をしました。

6. その他

女子棟・男子棟ともに部屋の整理整頓や、安全のために、ロッカー、整理棚の修理・設置、鍵の修理等を行い、さらに、全棟の壁面のペンキ塗り替えや、虫食い壁の取り換えをしました。

今後、運動場の整備、小規模農園など、整備を進めてまいります。多くの皆様のご支援で、きれいに改修されたセンターになりました。どうぞ、皆様お訪ねください。子ども達が待っています。



工事終了の感謝の折り

シェムリアップ日本語教室

京都民際日本語学校所属 HG 日本語教師 渡邊 格

日本語教育事業では、当初予定していたカンボジア人日本語教師の育成も順調に進み、今ではカンボジア人教師だけで初級を教えることができるようになりました。これまでのチェイ小学校内日本語教育のみでなく、青少年に日本語を教えるために Build Bright 大学（以下 BBU）で日本語講座を開講しました。

日本語教育では、単に日本語を教えるだけでなく、日本の文化や、社会、習慣なども教えてきました。現在、日本では多くの企業が外国人労働者の受け入れを始めました。そこ

で、2018年より技能実習生を希望する学生に対しても、新しいクラスを始めました。

現在送り出し機関はプノンペンに集中していますが、シェムリアップでも日本での就労を目指す若者がおり、彼らに日本語を教えるとともに、また、指導できる現地教師の人材育成を進めています。日本語教育を通じてカンボジアの若者の自立支援の手段になることを目指し、彼らが日本へ行き技能を身に付け、カンボジアへ帰国し、実際にその技術で生計を立てることができれば、自分自身



で将来を決定することができます。日本での就労が成功するには、日本語能力が不可欠です。今年度の日本語能力試験合格へ向けて、毎日学生達は一生懸命、勉強を続けています。彼らの今後に期待しつつ、HGも全力で彼らの夢の実現をサポートできればと考えています。皆様方にも、ぜひ、彼らの応援をお願いします。

TAO 東洋医学研究会副会長 久保 茂正

2013 年に TAO 東洋医学研究会 (1986 年発足、歯科分野で東洋医学を学ぶ者が集うスタディグループ) の同志 5 名が Hearts of Gold (HG) ボランティアスタディツアーに参加したことがきっかけで、NCCC の子ども達のむし歯が多いことに驚き、歯科治療のニーズがあることを聞かされ、翌年から歯科ボランティアを行うことになりました。

14 年は NCCC の子ども達の治療を倉橋信太郎、椋梨兼彰、久保茂正の 3 名で行いました。必要治療用機材はすべて自前で調達、文字通りボランティア活動の始まりです。15 年からはチェイ小学校の歯科検診と口腔衛生の予防教育を行うことになり、マンパワーが必要になり TAO 東洋医学研究会の会員に呼びかけ参加者は 9 名に。そして HG スタディツアーのプログラムの中に歯科ボランティアが組み込まれ、一般参加の人にもお手伝いをしていただくようになりました。参加の皆さまには大変感謝申し上げます。



↑ 屋外検診 検診は木陰の下で ↓



デンタル班は 16 年は 11 名。17 年は 14 名と徐々に参加人数を増やしてきました。順調にボランティア活動が大きくなる予感がしていましたが、18 年は 8 名 (倉橋、大小原、中田ご夫妻、佐藤、菅原、椋梨、久保) に減ってしまいました。そんな中、心強かったのは、藤沢ロータリークラブから大小原徹会長、ふじさわ湘南ロータリークラブから中田隆之会長、美穂ご夫妻がデンタル班として参加してくれたことです。初参加の菅原勝人先生は海外ボランティア経験者、三年連続参加の佐藤

真奈美先生は日本歯科医師会本部理事という肩書きで、ハートペアレントにもなられ、日本歯科医師会で我々の活動を紹介してくれています。活動当初、NCCC の子ども達の歯科治療は拔牙がほとんどでしたが、徹底した口腔衛生教育で歯の大切さを学び、ブラッシングを励行し、むし歯はどんどん減っています。



↑ ブラッシング指導
↓ 真剣にブラッシングする生徒



チェイ小学校の歯科検診は歯科医師が 4 名だったので 3 名が検診、1 名が各教室を回り予防教育を行いました。検診で大切なのは結果記載のアシスタントワークです。スムーズに行うには練習が必要で、大小原、中田ご夫妻にはツアー初日から夕食後の自由時間に連日筆記練習をしていただきました。また検診当日、一般参加の芦田様、大倉様におかれましては、遺跡観光を止め、丸一日デンタル班ボランティア活動に尽力していただき感謝申し上げます。一般参加の方には予防教育の際、歯ブラシ、手鏡、歯垢染色用錠剤やお水を配ってもらったり、実際の歯ブラシの動かし方を指導していただきました。マンパワーが必要な部分で我々と共同で作業を手伝っていただき大変助かりました。通訳ボランティアのスタッフ、大学生、日本語学校卒業生の皆さまなど、大勢の力の結晶でボランティア活動ができていることを痛感しています。

検診結果

幼稚園児 87 名 小学校児童 450 名
合計 537 名



歯科検診メンバー

世界的なむし歯の評価基準になるものに DMFT (1 人平均むし歯数) という数値があります。D は未処置う蝕歯 (decayed tooth)、M は 喪失 (missing tooth; because of caries) 歯、F はう蝕が原因で処置された歯 (filled tooth) の総和を人数で割った数、要するに 1 人あたりのむし歯経験値です。日本の場合はほとんどが F の治療完了歯ですが、チェイ小ではほとんどが D の未処置歯です。現状チェイ小では一人平均 6.9 本がむし歯です。また乳歯のむし歯治療はほとんど行われていません。12 才時 DMFT (永久歯列が完成する 12 才が世界的比較対象)

2015 年 6 年生 4.0 2016 年 6 年生 4.3
2017 年 6 年生 4.0 2018 年 6 年生 3.1
(日本国内では 1.0 を切っています)

日本に比べまだまだむし歯の多い現状ではありますが、我々が検診と予防教育に介入してから年々むし歯は減少傾向にあります！

チェイ幼稚園・小学校の生徒一人あたりのむし歯数を表にしました。

むし歯本数	0本	1～5本	6～9本	10本以上	生徒数
幼稚園 %	5	12	22	48	87
1 年生 %	4	14	20	34	72
2 年生 %	3	13	14	30	60
3 年生 %	1	14	15	23	53
4 年生 %	12	41	36	18	107
5 年生 %	8	36	25	11	80
6 年生 %	16	48	12	2	78
総数	49	178	144	166	537
比率 %	9.1	33.1	26.8	30.9	

幼稚園から小 6 までの 537 名中：むし歯のないものは 9.1%、むし歯罹患率は 90.9%
(統計処理：椋梨兼彰氏)

最後に、歯科検診票、手鏡を提供していただきました藤沢ロータリークラブ (RC) 様、そして歯症ブラシ、歯磨剤、タオル、消毒薬などの支援物資を提供していただきました藤沢 RC、(株) イーエックス、(株) さんこうどう、(株) 明治、タカラベルモント (株)、SUNSTAR、(株) トミヤ、伊藤歯科器材 (株)、GSK グラクソ・スミスクライン (株) の方々に感謝申し上げます。

◇有森裕子さんと AED を一緒に学ぼう！

12月22日(土)、西日本豪雨災害の復興支援を目的とし開催しました。岡山の市民ランナーの皆様とともに、NPO 救命おかやま様の協力のもと、AED(自動体外式除細動器)を用いた救命活動について勉強しました。講習後は受講証も発行されました。皆様も是非お近くの AED の場所をご確認ください。「日本全国 AED マップ」<https://aedm.jp>



◇第 37 回山陽女子ロードレース大会

12月23日(日)に県総合グラウンドで、有森裕子杯ハーフマラソン、人見絹江杯 10 K 走に、国内外のトップ選手や市民ランナーが参加しました。HG は、活動パネル展とグッズの販売をしました。2019 年は、12 月 15 日(日)となっています。



◇そうじゃ 吉備路マラソン

2月24日(日)、今回は復興支援チャリティマラソンとして2万人を超えるランナーを迎え、盛大に開催されました。HG はチャリティに賛同し、協力しました。HG ブースでは、多くの方が募金やオリジナルグッズを購入してくださいました。収益や募金は被災地支援活動に充てます。大会関係者の皆様を始め、参加ランナー、ボランティアの方々ありがとうございました！



◇第 9 回淀川国際ハーフマラソン

今年の大会は、「国内の被災地に支援を！ LOVE 遊 淀川 みんなで淀川河川公園をきれいに！」というテーマで、被災地を支援する大会となりました。(1 \$ 募金として、参加者お一人から 100 円の募金) この大会には多くの方がボランティアとしてブースを手伝ってくださいました。収益金は被災地支援に充てさせていただきます。来年は記念すべき第 10 回大会です。多くの皆様のご参加をお待ちしております。



◇かすみがうらマラソン兼国際盲人マラソン 2019

アンコールワット国際ハーフマラソンで有森賞としてスレイチアンさん(女性)とソカウさん(男性)が「かすみがうらマラソン兼国際盲人マラソン 2019」(4月14日)に招待され、5km に参加し、無事完走しました。通訳として、シェムリアップ支所のスライノッチが同行来日しました。両名は、HG 東日本会員交流会参加や、協力企業訪問、観光など初めての日本滞在を心から楽しんで帰国しました。



◇第 16 回アニモ・チャリティバザー

5月5日(日)、アニモ・ミュージアムにて、すっかり地元のイベントとなり、今年はゲストとして、HG 理事の高石ともやさんを招いてコンサート。手拍子したり、一緒に歌ったり、皆さん楽しまれました。その後は、恒例のステーキ弁当に加え、スムージー、うどん、おでん、草餅などのグルメ、日用品や衣類、そして、HG のグッズの販売をしました。東京から参加くださった方もあります。準備から片付けまで、絆の会の皆様、他たくさんのボランティアさん、本当にありがとうございました。



◇ 2019 ARIMORI CUP

むかわ町は、昨年の胆振東部地震のほぼ震源地で大会開催が危ぶまれましたが、5月19日(日)、穂別リバーサイドパーク河川敷コースを 353 人が元気に駆け抜けました。前日 18 日には、全校生徒が被災者となった北海道穂別高校で、「つながり～ピンチをチャンスに～」と題したパネルディスカッションに、有森代表が、崔洋一監督らと参加。



◇第 35 回みしま西山連邦登山マラソン大会

5月26日(日)、真夏日の中、800 名を超えるランナーが参加しました。大会前には、三島中学校の生徒達が HG の T シャツを着て、コースの清掃活動を行うなど、地域の皆様で作上げる心温まる大会です。翌 27 日にはマラソン参加の三島中学校で、有森代表が「あきらめないことの大切さ」をお話しました。



ボランティアリレー

高野山真言宗 千光寺 名誉住職
竹井 成範



2011年（平成23年）11月21日（21日は、弘法大師さんのご縁日です）に、高野山真言宗とハート・オブ・ゴールド（以下、HG）は、公式パートナーシップ協定を結びました。締結に至るまで、HG代表の有森裕子さんには、遠路はるばる深山幽谷

の高野山へ、二度もご足労いただき、誠にありがとうございました。

聞きますれば、有森家の菩提寺が高野山に有るとのこと、やはりご縁があったのだと大変嬉しく思いました。

11月21日、有森代表と松長有慶管長猊下、本山重役、高野町副町長、高野山学園役員等関係者多数の出席の下、晴れやか且盛大な式典が挙行されました。

翌2012年4月1日より、高野山とHGとの協働事業であるハートペアレント事業が開始され、数年間は順調に進んでおりました。しかし、現在は、高野山側の問題で、少々停滞しているのです。申し訳なく、残念でなりません。

但しそんな中、有森さんの故郷である岡山・備中地区の高野山真言宗寺院で組織されている南真会におきましては、微力ながら現在まで継続的な支援をさせていただいております。

曲がりなりにも、これまで支援を続けられたのは、ひとえに有森代表の素晴らしいひととなりにより、今日までの献身的な社会貢献を目の当たりにしてきたからです。加えて、HGの組織を構成する皆様方のほのぼのとした温かい人柄が我々に力を与えてくださっていると思うのです。まさに「情けは人の為ならず めぐりめぐって己が為」です。

ちなみに我々は、二年に一度、カンボジアを訪問し、法話をさせていただいたり、楽しく子ども達と交流した

主な活動報告（2019 年前半）

- 1/11、21 NIPES キックオフミーティング（ブノンペン）
- 1/23 ラジオ体操トークショー講演（代表、東京）
- 1/25 岡山せとうちライオンズクラブ例会（岡山市）
- 1/25 第三藤田小とNCCCスカイプ交流（岡山市）
- 2/1 第三藤田小出前授業（岡山市）
- 2/8 岡山ロータリークラブ寄贈式（シェムリアップ、NCCC）
- 2/21 皆根小出前授業（岡山市）
- 2/24 そうじゃ吉備路マラソン（総社市）
- 2/25 平福小学校 物資報告（岡山市）
- 3/1-2 第3回カンボジアパラ陸上競技会（ブノンペン）
- 3/4 浩志会講演（代表、東京）
- 3/5 第三藤田小 活動報告（岡山市）
- 3/5-7 JICA 草の根・中学校体育教育支援事業WS（ブノンペン）
- 3/11-13 JICA 草の根・中学校体育教育支援事業WS（ブノンペン）
- 3/18 岡山工業高校 活動説明（岡山市）
- 3/24 淀川国際ハーフマラソン（守口市）
- 西日本会員交流会（大阪市）
- 4/14 かすみがうらマラソン（土浦市）
- HG 東日本会員交流会（東京）
- 4/21 百間川ふれあいフェスタ（岡山市）
- 5/5 アニモ・チャリティバザー（岡山市）
- 5/18 北海道穂別高校「お話し集い」（むかわ町）
- 5/19 Arimori Cup マラソン大会（むかわ町）
- 5/26 みしま西山連峰登山マラソン（長岡市）
- 5/27 三島中学校講演（代表、長岡市）
- 6/23 そうじゃを元気にするペタンク大会（岡山市）
- 6/30 HG 総会・理事会・会員交流会（岡山市）

主な活動予定（2019 年後半） 変更あり

- 7/2 アニモの会（岡山市）
- 8/10 HG 活動報告会（東京）
- 8月 NCCCより留学生帰国／来岡（岡山学芸館高校）
- 8/28 岡山県技術移転プログラム研修員来岡（11月まで）
- 8/30 HG 福島クラブ総会・交流会（福島市）
- 9/7 HG 長岡クラブ総会（長岡市）
- 9/28 親子チャリティマラソン in おもちゃ王国（岡山市）
- 10月 HG 活動報告会（岡山市）
- 12/5-9 HG スタディツアー（シェムリアップ・ブノンペン）
- 12/8 アンコールワット国際ハーフマラソン（シェムリアップ）
- 12/15 山陽女子ロードレース（岡山市）

りしているのですが、真言行者として、大きなお陰、利益（りやく）を受けていることを実感しています。

昨年、設立20年を迎え、益々ご発展なさっているHGと我々高野山の関係が今後、更に有意義なものとなることを願ってやみません。

【自立・復興支援事業】

チャンスをありがとう！
ロン・スライニット



5人兄弟の長女として、バンティアスレイで生まれました。両親はとても貧しく、私は兄弟の世話をするため学校にはほとんど行けませんでした。時々、弟や妹を連れて学校を見に行ったこともありましたが、12才の時NCCCに入ることができて、毎日ご飯が食べられ、学校に行き勉強ができることが、とてもうれしかったです。

チェイ小学校・タイショウ中学校では成績が下がると悔しいので、欠席も遅刻もなしで、夜も勉強しました。中学3年生の卒業試験は1番になりました。日本語が

上手になれば日本に留学できると知って、どうしても留学したいと思い日本語もがんばりました。

日本の学校は部活や体育祭、文化祭など楽しい行事がたくさんあります。また、家族や先生、友達にお祝いされる入学式や卒業式があり、感動しました。カンボジアは家族が学校に来ることはほとんどありません。8月で留学が終わりますが、帰ったら、勉強と日本語をがんばって、また日本に来たいと思っています。チャンスがあれば、がんばることはできます。

留学のチャンスをくださった、学芸館高校とHG、ハートペアレントの方々に心から感謝いたします。これからも応援してください。

*詳細はHPのニット日記をご覧ください。9月からはロッ・スライホームが留学してきます。留学里親さんを募集中です。

第 21 回総会・交流会開催

岡山シティーミュージアムにて、第 21 回総会を開催しました。2018 年度事業報告・決算報告、2019 年度事業計画案・予算案、役員の改選など、すべての議案が承認可決されました。その後、場所を移して交流会を開催。スタッフ一同、心を新たに充実した活動になるよう努力して参ります。どうか、末永く応援いただけますようお願いいたします。

理事改選により退任理事は、一家明成氏、坂崎眞由美氏、退任監事は市川捷治氏。長い間ありがとうございました。

新理事には、西山直樹（東南アジア地域事務所長）、新監事として本山光男氏が就任いたしました。

西日本会員交流会（3 月 24 日）

淀川国際ハーフマラソンの後、大阪にて西日本交流会を開催しました。



当日は徳島や岡山などから 40 名の会員が参加くださいました。代表から HG 活動報告、留学生ロン・スライニットの挨拶、島尾リーダーによる乾杯から懇親会に入り、会員同士の交流を深めました。

東日本会員交流会（4 月 14 日）

かすみがうらマラソン終了後、東京にて東日本交流会を開催しました。会員 28 名に加え、マラソンに出場した、チュート・スレイチアン、ヴェット・ソカウ、通訳の



チュート・スライノッチも参加して、福島クラブの本田会長を始め、派遣者の米山さんのお母様や懐かしい方々も参加くださり賑やかな会になりました。

● HG の活動は皆様方の支援により支えられています
いただいた寄付金・グッズ販売収益金は、すべて活動のために使わせていただきます。

● 会員になる

個人会員 年間 3,000 円 法人会員 年間 30,000 円
メリット：①活動地へのボランティア・研修・見学、
② HG 通信（年 2 回）等の配布、③イベントや交流会への参加、④総会への出席と議決権、⑤法人会員：Web サイト上の掲載

● ハートペアレント（里親）になる

月 3,500 円×12 ヶ月＝年間 42,000 円＋会費

● 寄付する 一般寄付、指定事業に寄付

● オンライン決済 / クレジットカード

団体ホームページ「寄付する」ボタンをクリック。
「継続寄付」から決済をお願いします。

夢、かないました

HG 日本語教室で学び、岡山学芸館高校への留学第 1 期生として、その後に続く学生達の道筋をつけた、チュン・スライミーさん。



現在は、日本人男性と結婚し、プノンペンに在住。

日本の旅行代理店で、窓口や手配業務を行い、日本へのツアーにもほぼ月 1 回ペースで添乗している活躍ぶりです。

「日本に行く機会も増え、カンボジアの人に日本のことをたくさん紹介できるように、自分自身が日本のことをもっと知りたい。仕事は忙しいけど、いつか大学にも行きたい。」と、明るく前向きな性格は、学生の頃と変わっていません。 更なる飛躍を！

事務局からのお知らせとお願い

● インターン募集！

HG ではカンボジアで活動するインターンを募集しています。プノンペンでの体育科教育事業、シェムリアップでの日本語教育・養護施設事業など、短期から長期まで、HG スタッフと現場で活動してみませんか？

● HG 会員募集！

活動に賛同してくださる会員（個人・法人）を募集しています。ぜひお知り合いの方をお誘いください。

● ボランティア募集！

本部事務局では、ボランティアを随時募集しています。事務作業・イベントのお手伝い・プロジェクト補助・翻訳など、ご都合に合わせてご参加ください。

● 集めています！

書き損じ葉書・未使用の切手・クオカード・商品券・図書券・などが活動資金となります。本部事務局までお送りください。

● スタッフの動向

本部事務局に、片岡茂夫が着任。

東南アジア地域事務所に、吉田琴美が着任。

本部事務局の正岡睦美が 1 月末、本山光男が 3 月末に退職。

本山さん、ありがとうございました！

13 年前、手書きで会計簿を作成していた時に入所して下さり、会計ソフトを導入して本格的な経理・会計部としてくださいました。おかげで 2012 年岡山市第 1 号の認定 NPO として認証されるまでに HG を育ててくださいました。

※ HG は認定 NPO 法人です。寄付金は、個人・法人を問わず税制上の優遇が受けられます。また、相続または遺贈による寄付には相続税が課税されません。詳しくは最寄りの税務署へお尋ねください。